

E 0.0.0.3-3-1



石田部門ニ對スル意見書

橋本三郎

E-0023



精油純力(10%)
5182000

日本
北能分館
イソオクタン
ホ
相方、ハイオクタン
工業物
下
石
油
研究所



石油部門ニ對スル意見書

第一基本方針ニ就テ

- (一) 石油部門ニ於テハ茲一、二年ノ對策ガ最モ緊要ニシテ、若シ五年計
 畫ヲ編テ當初ノ二年位ガ其ノ準備行程ニ終ル如キコトアラシカ戦争
 遂行力ノ確保トイフ見地ヨリ極メテ重大ナルヲ以テ、第一期計畫
 ノ(五年計畫)ヲ與ニ二年後ヲ目標トスル前期ト五年後ヲ目標トスル
 後期トニ分テ計畫ヲ複立スルコトヲ要ス
- (二) 假令南方ニ於テニ力ヲ注シテ開發スルモ其の前途ヨリ見、特ニ領的開
 越ヨリ考へ、人並石油事業(海陸合成ヲ含ム)ノ進展ニ俟ツトコロ
 多クナルヲ以テ、天然石油及人造石油共進ノ方針ヲ確立セザル可カ
 ラス
- (三) 今後南方ノ油田ノ開發ニ主力ヲ傾注セザル可カラザルコト勿論ナル
 モ、内地及北緯太ノ油田開發ヲ忽忽ニ附スルガ如キコトアル可カラ
 ス

(四) 南方ニ於ケル現有石油所ヲ復舊シ尙ホ之ガ進展ヲ計ラザル可カラザ
 ルモ、企業立地ノ原則トシテハ朝鮮、滿洲及北支ヲ含ム内地ニ重點
 ヲ置カザル可カラス。特ニ時勢ノ推移ニ伴ヒ必興ナル高級品ノ精製
 ニ就テ之ヲ痛感スルモノナリ

(五) 東亞共榮圏各地ニ亘ル石油ノ適切ナル配分及運輸等ニ就キ綜合的計
 畫ヲ樹立シ遺憾ナキヲ期セザル可カラズ

第二後備ノ整備ニ就テ

- (一) 陸井、精溜及配分ノ全般ニ亘リ且ツ人造石油ヲモ統べ、官、民
 ヲ一貫シタル綜合的計畫ヲ樹立スル爲メ石油院トモ稱スベキ強力ナ
 ル一元的機關ヲ設置スベキナリ
- (二) 南方ノ石油ハ戦争遂行力確保ノ見地ヨリ莫大の力集中主眼ヲ採ル
 ノ與アルヲ以テ之レガ企業方式ハ綜合的ノ運営ニ適スルモノナラザ
 ル可カラズ



(三) 東亞共榮圈内ニ於ケル原油及製品ノ運搬配分ヲ遺憾ナカラシムル爲メ之ガ機構ヲ整備スルコト急務ナリ
(四) 天然石油及人造石油ノ兩事業ニ對スル綜合的統制指導ヲ目的トスル機關ヲ設立(帝然ヲ併合)シ、今後必興トスル尨大ナル資金ノ供給及ヒ綜合的指導ノ任ニ當ラシムベキナリ

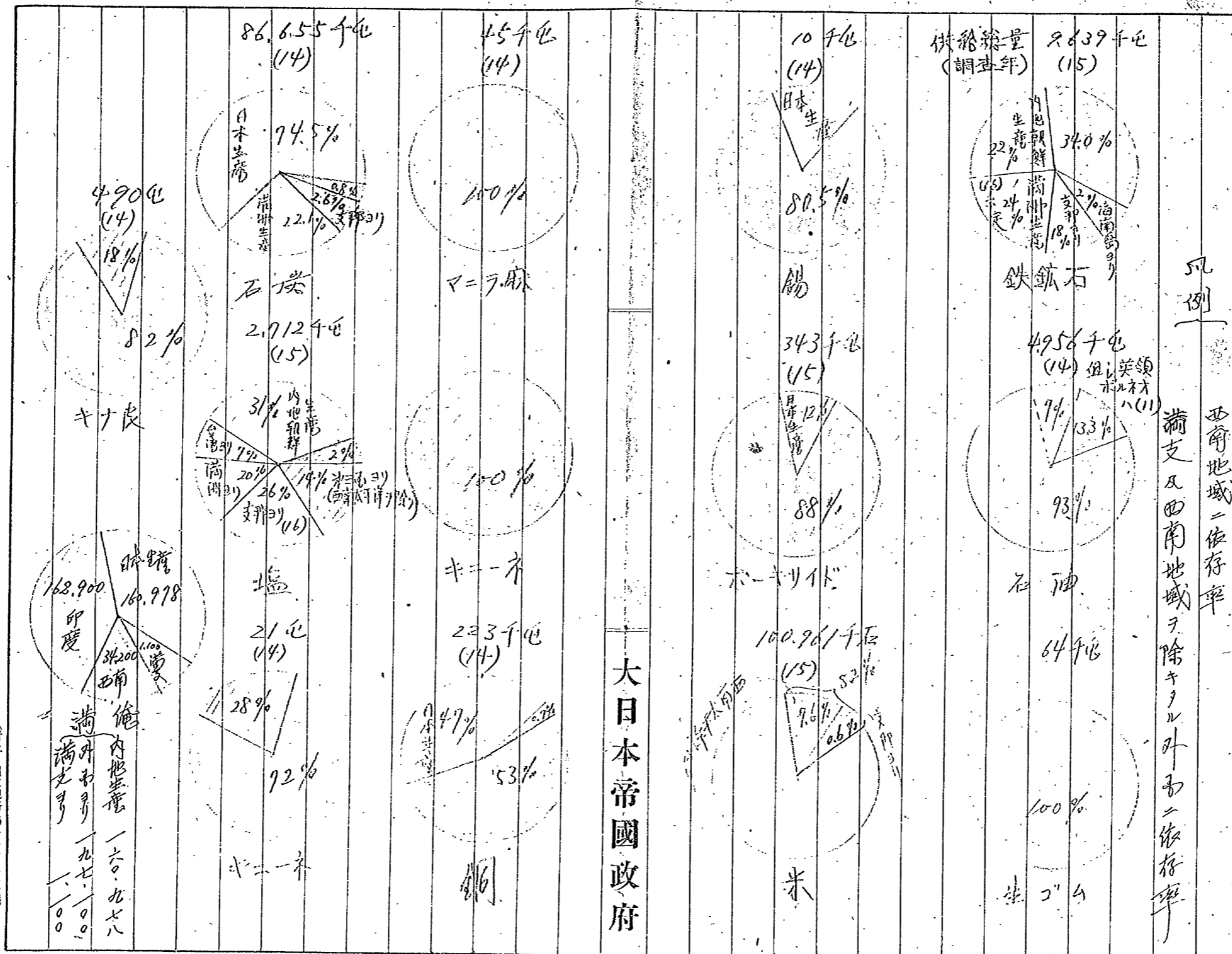
第三附隨要項

- (一) 天然石油ニシテ人造石油ノ設備ニ依リ之ヲ精製シ又人石「多」ルヲ天然石油ノ設備ニ依リ之ヲ精製スル必要緊切ナルモノアルヲ以テ法制上及機構上ニ改善ヲ加ヘ合理的整備ヲ計ラザル可カラズ
- (二) 天然石油及人造石油ハ價格「高」ル方針ニ依リ負擔ノ均衡ヲ計リ、特ニ人石ノ育成培養ニ對セザル可カラズ
- (三) 整備セラレタル配分機關ハ貯油及油槽船ノ施設ニ遺憾ナキヲ期セザル可カラザルコト勿論ナルガ、特ニ油槽船ノ建造ニ就テハ徒ラニ他ニ

四 依存スル能ハズ、自ラ船腹ノ増強ニ努力セザル可カラズ
將來著シキ規模トナルベキ本企業ニ對シ技術員ノ養成ニ最善ノ努力ヲナサザル可カラズ

以上





大日本帝國政府

西南太平洋地域ニ依存スル戰器原料依存率

凡例 西南地域ニ依存率 滿支及西南地域ヲ除キタル外ニ依存率

折上額定額格B5(12×22.5)類



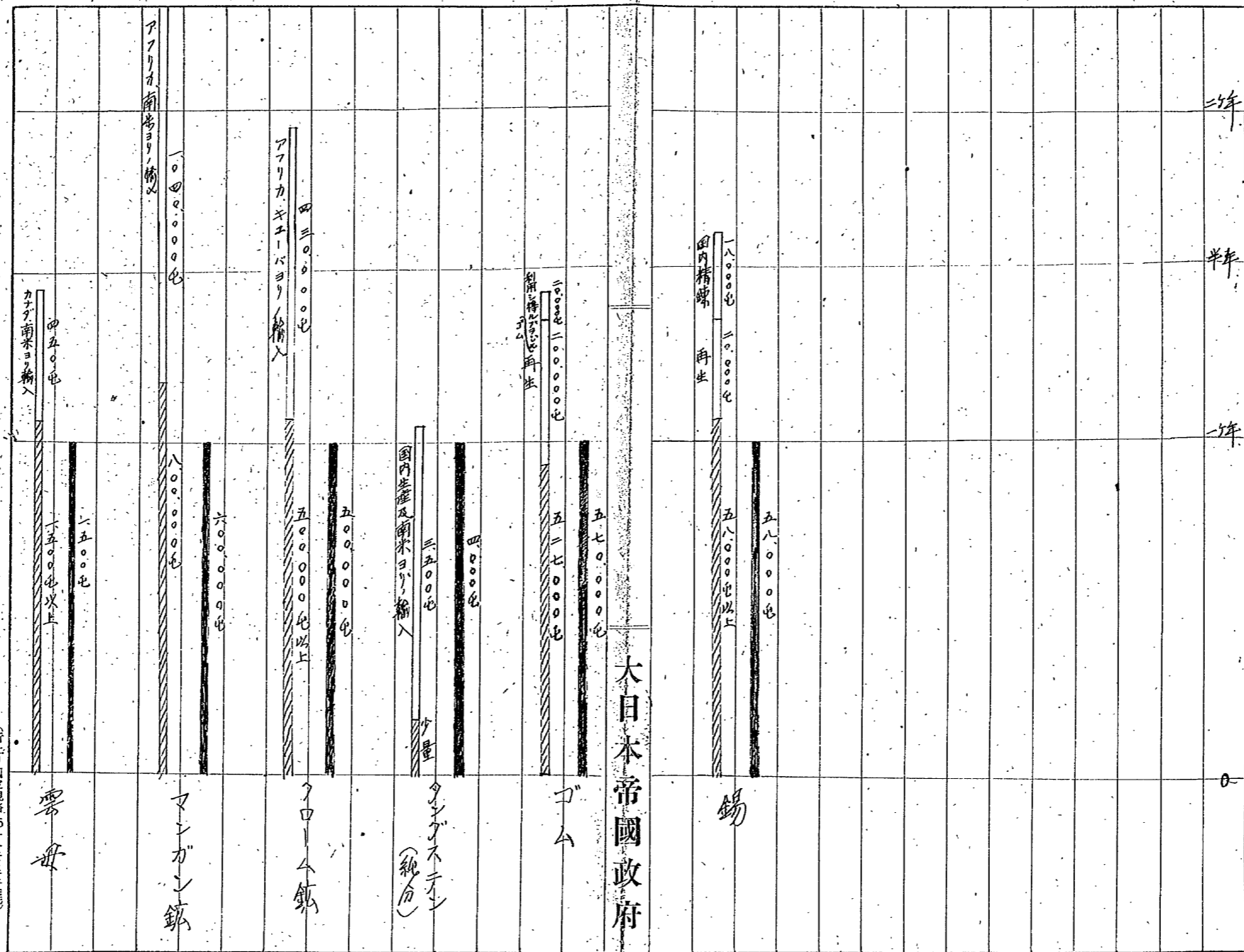
米
 及び
 於ける
 戰
 艦
 原料
 の
 費
 遷

資源名	陸軍省次官局作成										陸海軍軍需品委員会作成			
	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1927	1928	1928	1936	1937	1938	1939
1 鋸 天														
2 アルミニウム														
3 シンクモ														
4 硫 素														
5 アスファルト														
6 バルサム														
7 カンフル														
8 グロミウム														
9 椰子 殻														
10 コーヒー														
11 コルク														
12 亜麻仁														
大日本帝國政府														
13 黒 鉛														
14 大 麻														
15 生 皮														
16 ヨード														
17 黄 麻														
18 カホック														
19 亜麻仁油														
20 マニラ織紐														
21 マンガン														
22 水銀(Mercury)														
23 雲 母														
24 ニッケル														
25 窒 素														
26 木ミカ														

(新上り調定規格B5(18×25#8種))



米内戦時原料の推定貯蔵量及び消費量比較



大日本帝國政府

(折上り 固定規格 51-1825 五五五)

消費量
貯蔵量

石油	生産	363,700 ㌔	7%	
	輸入	4,592,000	93%	
	計	4,955,700	100%	
銅	生産	105,286	47%	滿洲生産 19,160,000
	輸入	117,224	53%	" 輸出 820,000
	"	296	0	18,340,000
	計	222,806	100%	
蔗糖	内製生産	64,520,000		74.5% 輸入 2975000
	輸入	18,340,000	輸出(日本)ヲ差引ル数字 21%	滿洲 820,000
	計	3,795,000	4%	3795,000
	計	86,655,000		100%
滿洲		19,160,000	22.1	
	計	2,975,000		
	輸入(滿洲引ヲ除ク)即チ佛印支	2,975,000	3.4	
	" (滿洲引ヲ除ク)即チ支	2,302,000	2.6	
鉄鋼石	ワレ	出島	佛印	
	1945	601	76	
	2408	13,83	472	
生ゴム	ワレ	蘭印	佛印	泰
	553	398	69	37
	13,27	20,97	4,69	3,43
石油	蘭印	英領木川林		
	6426	908		
	9523	1700		

大日本帝國政府

(新上リ規定規格B5「ハニ」ニ準フ)

米、穀、農産物輸送及工場供給量年次推移並ニ輸入量ト生産量比較

資料 樺太米子政府總表刊行物ニ據ル

總計	1936 産額	10,000 T.
	世界ニ南アジア	1935 輸出額 7,000 T.
		世界消費量 500~550 T.

大日本帝國政府

クローム	ニユーカレドニア島	
大降洲	南口デヴィア	ロアグアンチ地方
		セルクエ地方
小アジア	ブルツサ附近	グアハーダー
	1935年 鉱山年2万噸	
	ニユーカレドニア	トルコ(小アジア)
	93,971噸	48,508
	150,504	
ギリニヤ	南口デヴィア	30~50万噸
	31,894	105,914
世界	日本	
750,000	30,000	

(折上り固定規格B5ハニキニ準ル)



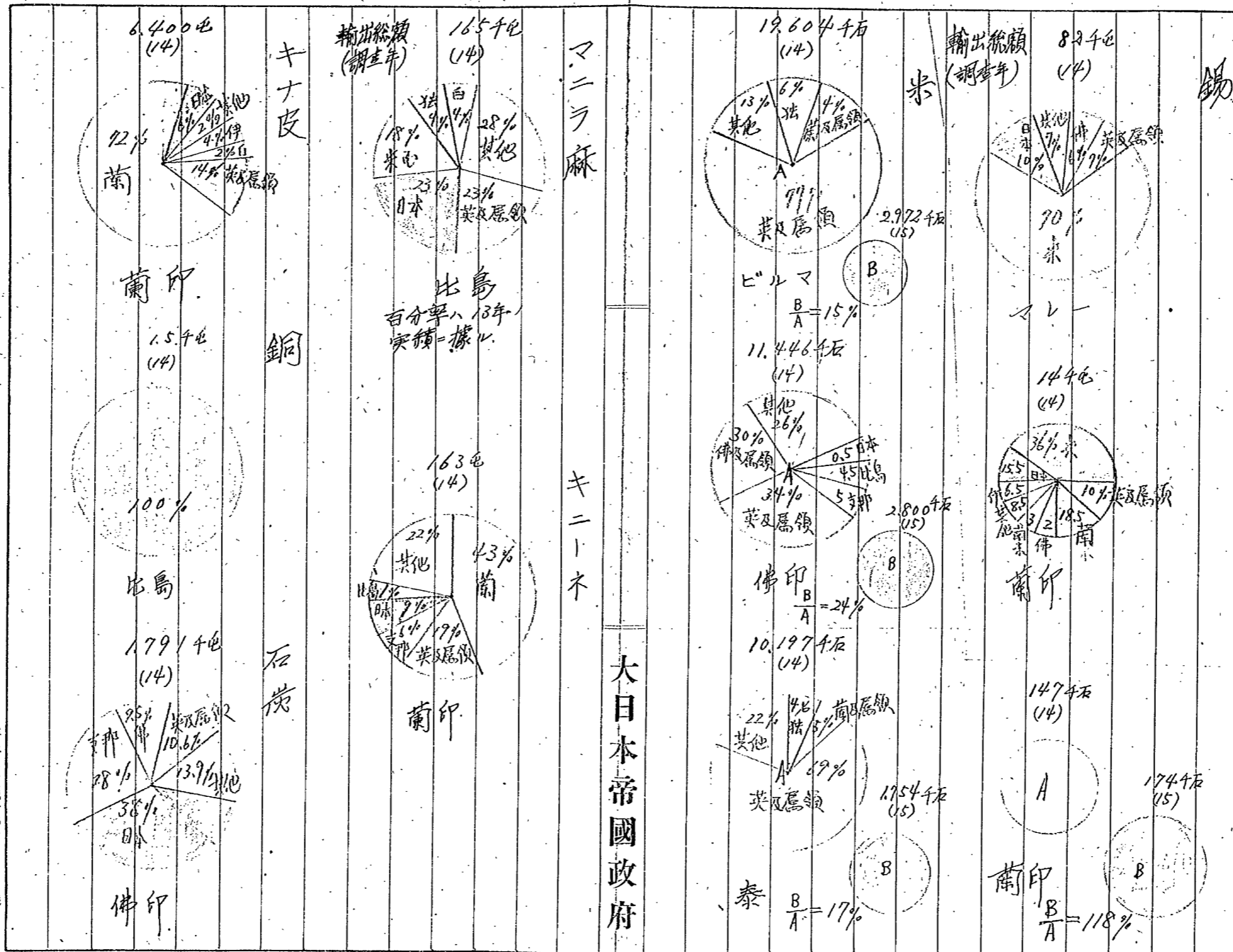
生ゴム		石油		輸出総額 (調査年)		鉄鉱石	
553千屯 (14)		6,426千屯 (14)		1,983千屯 (15)		1,983千屯 (15)	
マレー	378千屯 (14)	葡印	908千屯 (11)	マレー	1,254 (15)	佛印	三三
	葡印	英領ボルネオ	33.7%	比島	100%	比島	一九八三
62千屯 (14)		英領ボルネオ	33.7%	比島	33 (15)	佛印	三二四
37千屯 (14)		佛印	33.7%	佛印	100%	佛印	一九九八
茶	茶	茶	茶	佛印	佛印	佛印	一九八三

西南太平洋地域、戦時原料輸出総額ニ対スル日本向輸出額

(新上り固定相場 85一八二五五七)

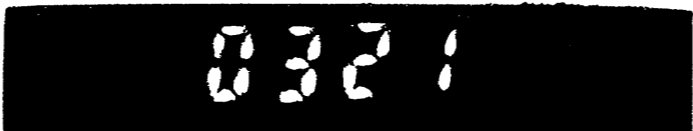
大日本帝國政府

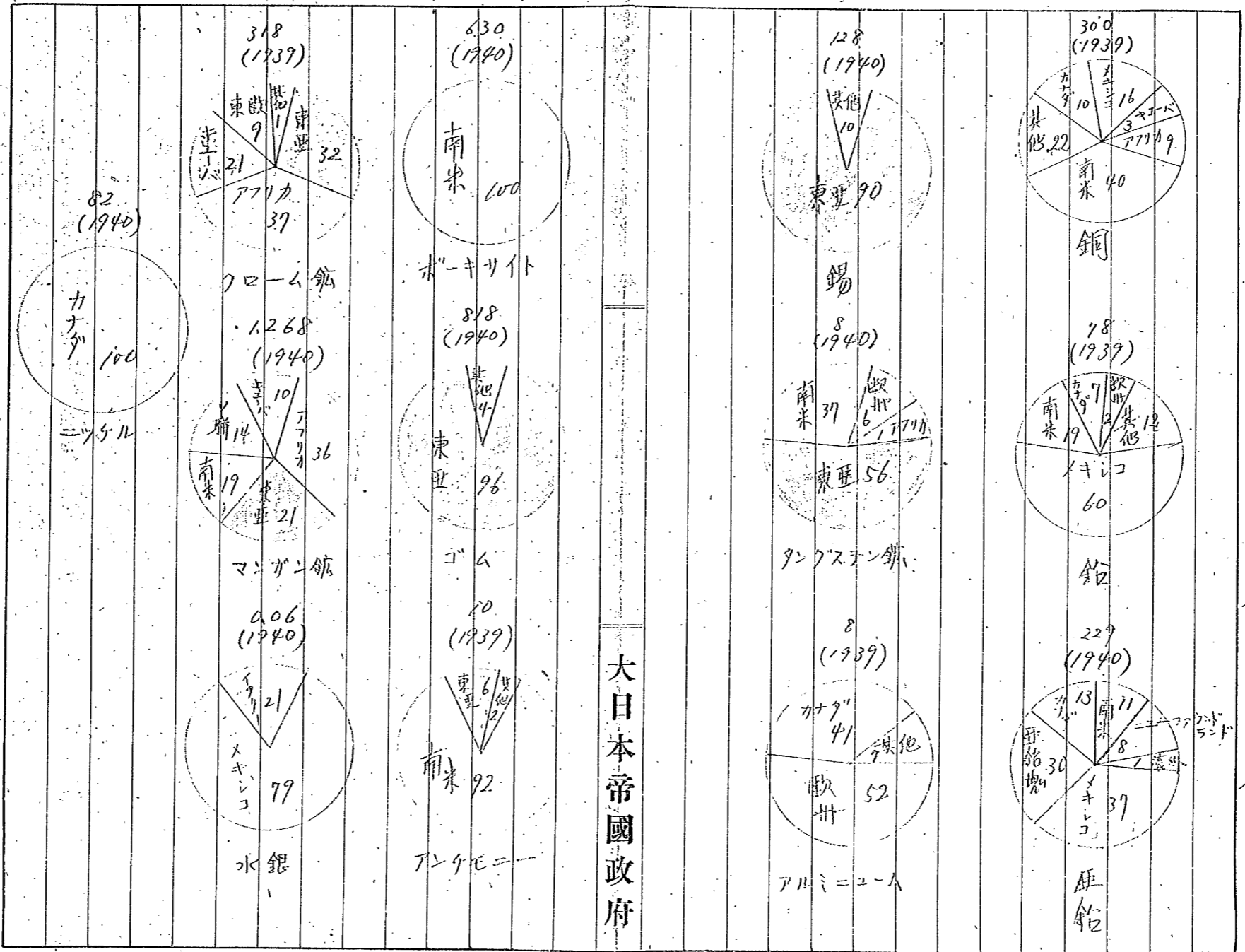




(折上り固定価格時一八二五五種)

大日本帝國政府





大日本帝國政府

米及少戰原料産産及ゴム輸入数量(圓別)比率

(折上額定規格B5一八三三三三三三)

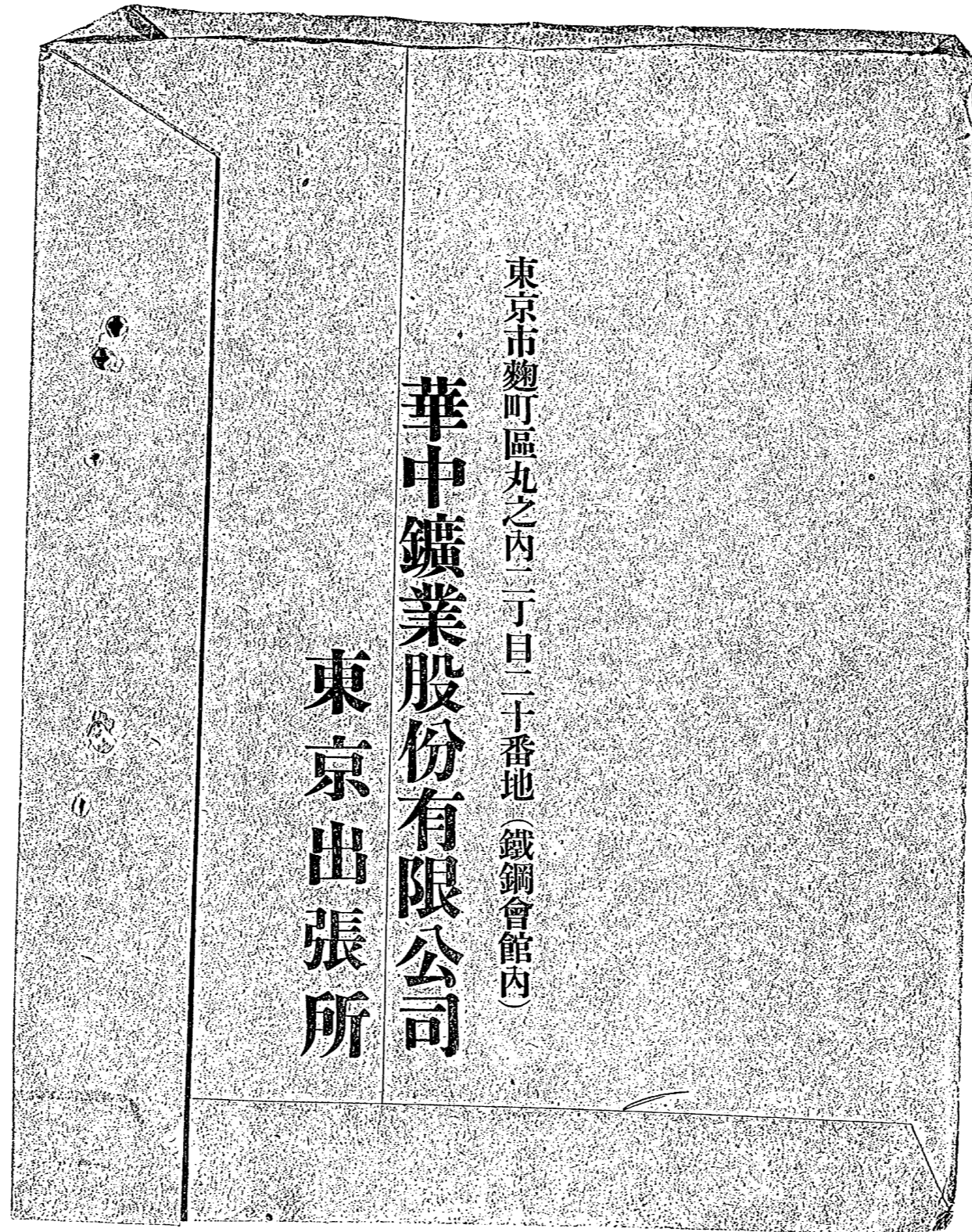


果園、西南太平洋地域
依存率

戦畧原料、依存率圖

E-0023

0324



東京市麴町區丸之内二丁目二十番地(鐵鋼會館内)

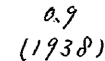
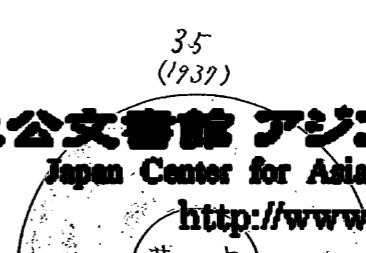
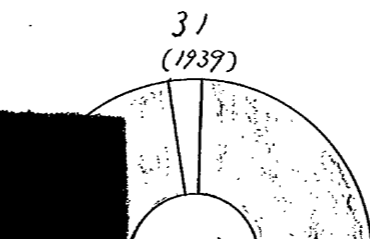
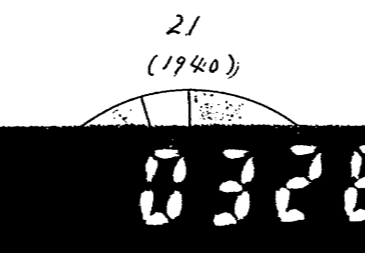
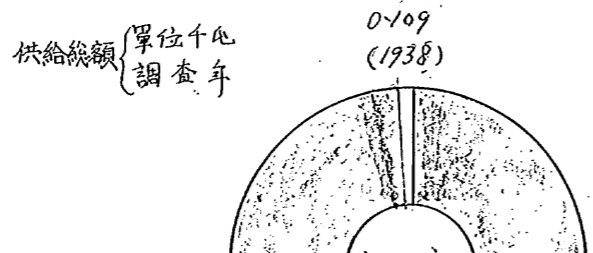
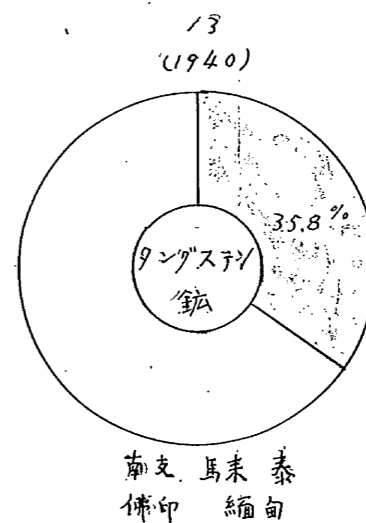
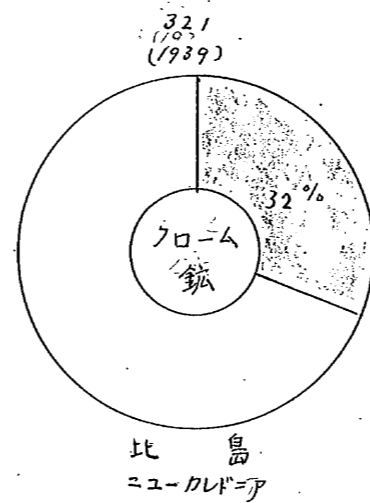
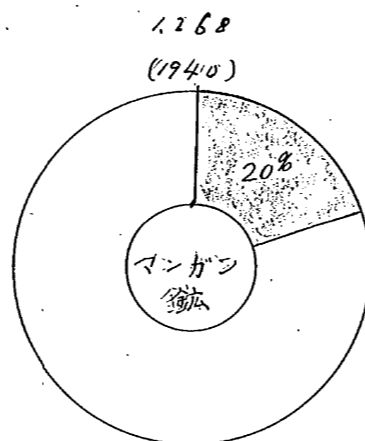
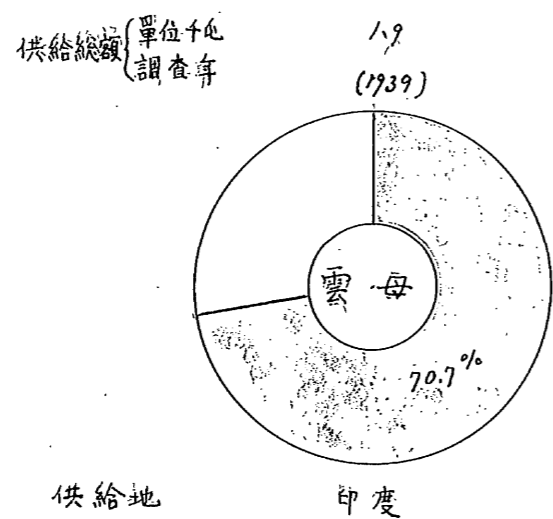
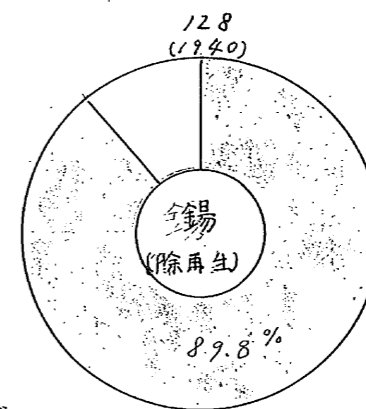
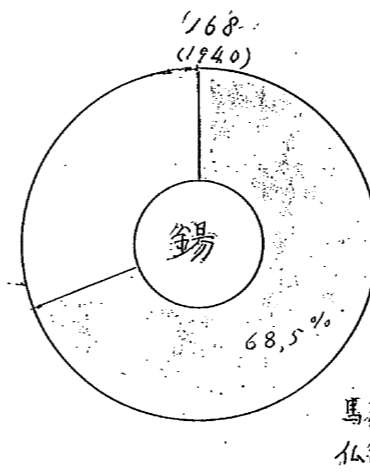
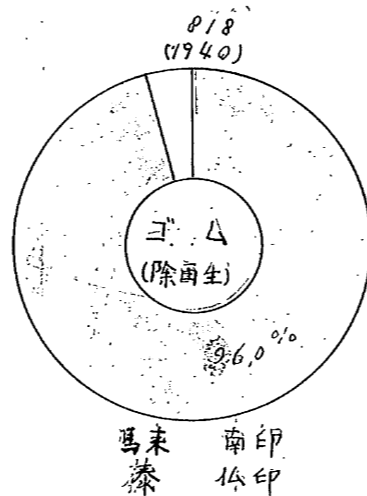
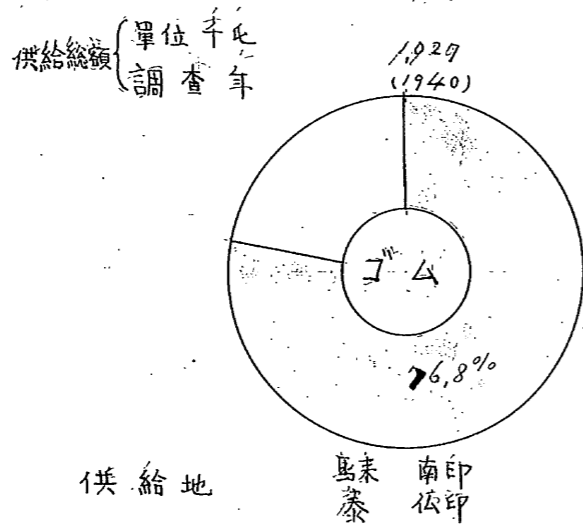
華中鑛業股份有限公司

東京出張所

E-0023

0325

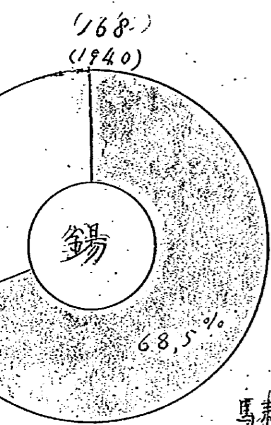
米國ノ西南太平洋地域ニ依存スル戰畧原料ノ依存率
 資料：概シ米國政府発表刊行物ニ據ル



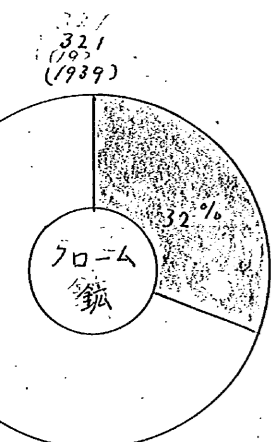
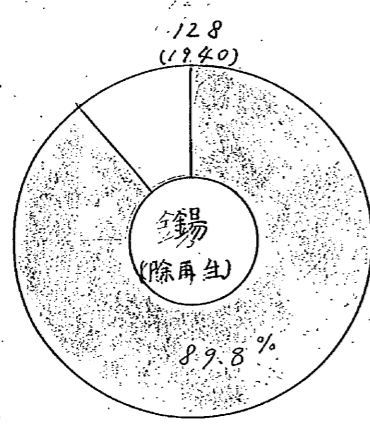
E-0023

0326

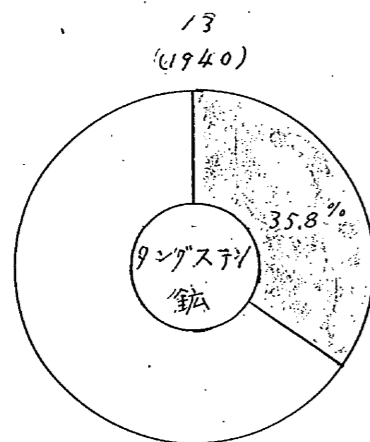
原料依存率



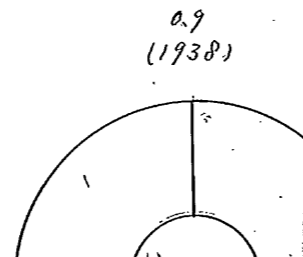
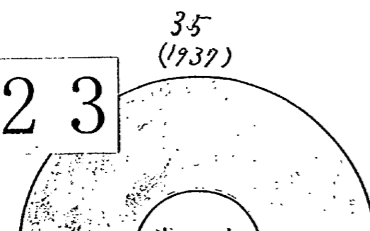
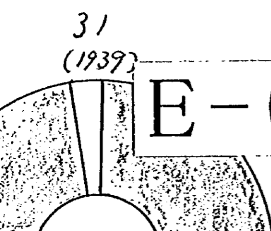
馬來 蘭印 泰
爪 南 支



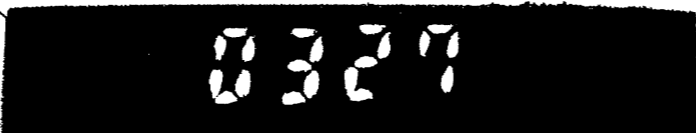
比 島
ニューカレドニア

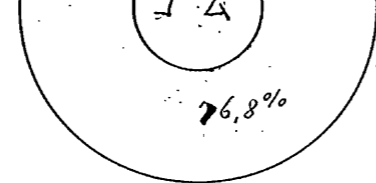


南支 馬來 泰
佛印 緬甸



E-0023



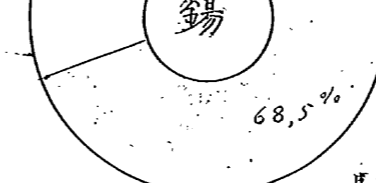


供給地

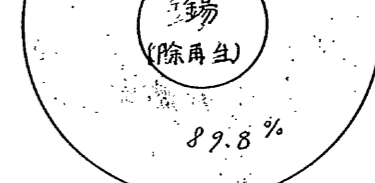
馬來 南印
泰 爪印



馬來 南印
泰 爪印

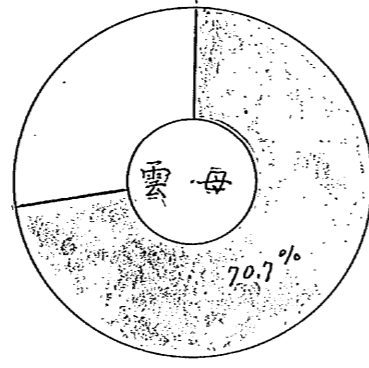


馬來 南印 泰
爪印 暹 支



供給総額 (單位千匁
調査年)

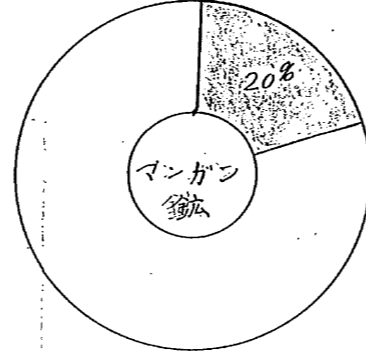
1.9
(1939)



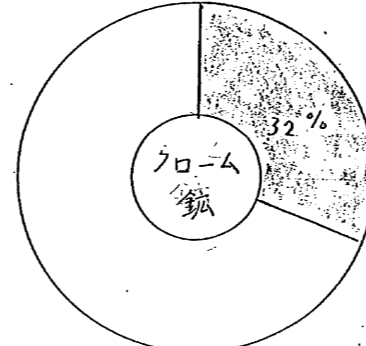
供給地

印度

1,268
(1940)

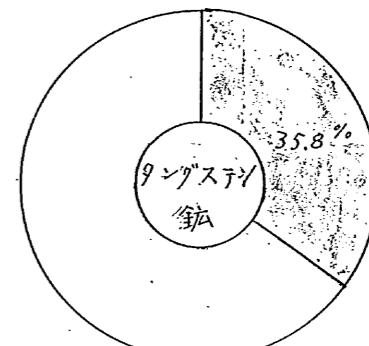


321
(1939)



比 島
ニューカレドニア

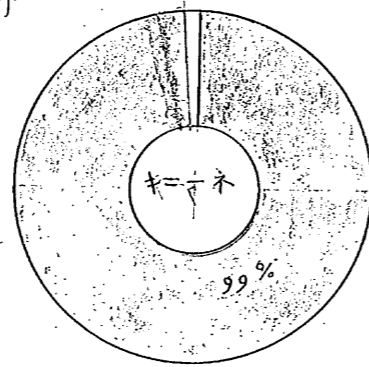
13
(1940)



南支 馬來 泰
佛印 緬甸

供給総額 (單位千匁
調査年)

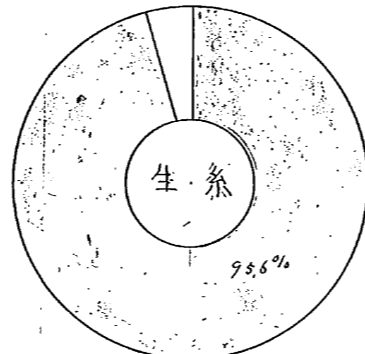
0.109
(1938)



供給地

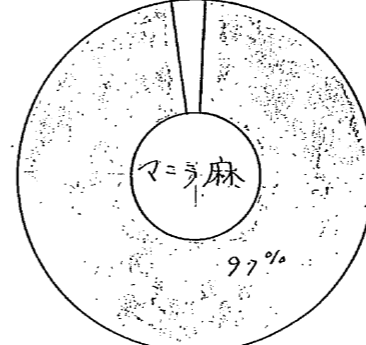
蘭印

21
(1940)



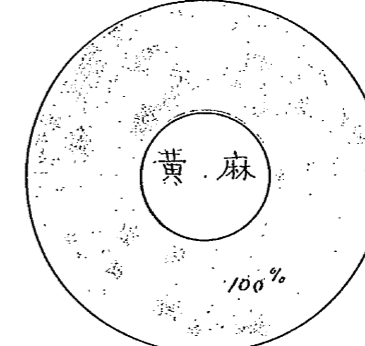
日本、支那

31
(1939)



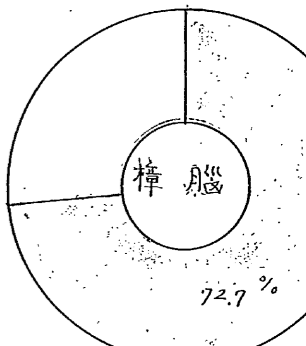
比 島

35
(1939)



印度

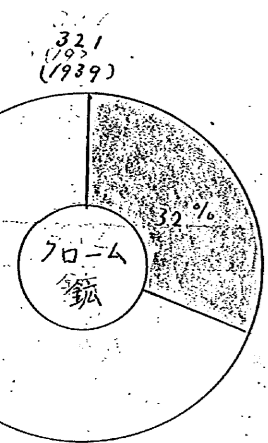
0.9
(1938)



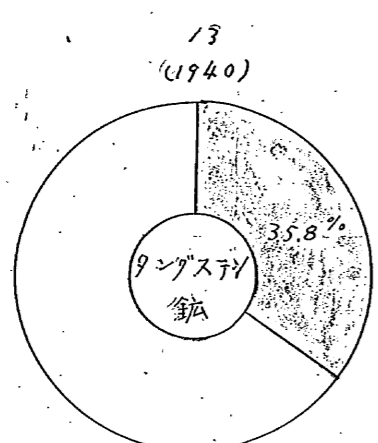
田 林



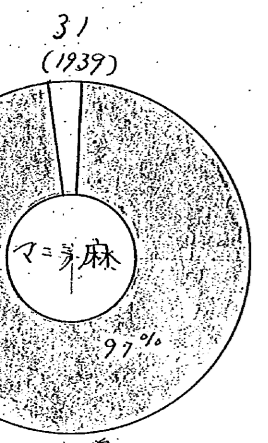
馬末 葡印 泰
 仏印 南支



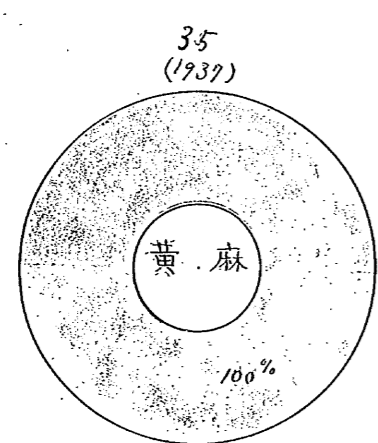
比 島
 ニューギニア



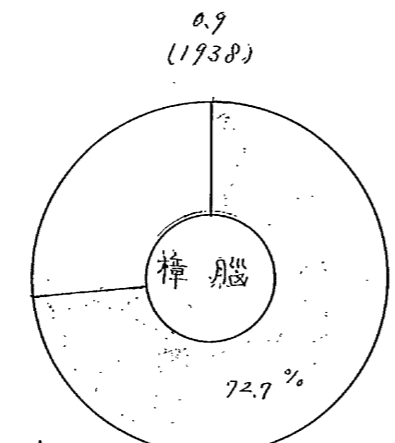
南支 馬末 泰
 佛印 緬甸



比 島



印度



田 林

米國の戦畧資源依存率圖

E-0023

0330

資料 銅
此率 千兩

考 備	地方		南			支			北			外			計			地 事	
	計	印 支	澳 洲	東 印	比 島	西 印	中 支	英 支	北 支	日 支	日 支	日 支	日 支	日 支	日 支	日 支	日 支		
	八五・四	五・九			五・〇					七〇・〇	七〇・〇	八・〇	二八・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	1	築 城 及 造 鐵 板
	一・六	一・六			一・〇					四一・一	四一・一	一〇・四	八・五	一・一	一・一	一・一	一・一	2	生 産 差 計
	九・三	一・七			一・〇					七五・〇	七五・〇	一〇・九	八・九	一・四	一・四	一・四	一・四	3	生 産 差 計
	一・五	一・四			一・〇					五五・〇	五五・〇	一・四	八・九	一・四	一・四	一・四	一・四	4	生 産 差 計
	二・六	二・六			一・〇					五五・〇	五五・〇	一・四	八・九	一・四	一・四	一・四	一・四	5	生 産 差 計
	三・九	三・九			一・〇					五五・〇	五五・〇	一・四	八・九	一・四	一・四	一・四	一・四	6	生 産 差 計
	全 四	全 四			一・〇					五五・〇	五五・〇	一・四	八・九	一・四	一・四	一・四	一・四	7	生 産 差 計
	八・三	八・三			一・〇					五五・〇	五五・〇	一・四	八・九	一・四	一・四	一・四	一・四	8	生 産 差 計
	一・五	一・五			一・〇					五五・〇	五五・〇	一・四	八・九	一・四	一・四	一・四	一・四	9	生 産 差 計
	二・一	二・一			一・〇					五五・〇	五五・〇	一・四	八・九	一・四	一・四	一・四	一・四	10	生 産 差 計
	三・九	三・九			一・〇					五五・〇	五五・〇	一・四	八・九	一・四	一・四	一・四	一・四	11	生 産 差 計

銅ニ就テハ大東亞地圖ニ於テ自給鐵小因鐵
ナル事情ニ基リ之不足対策ニテ生産増強
鋼板ノ代用品ノ確保用消費現況ノ強化
等ニ一定考慮セラル

(1) 生産増強ニ關スル対策
日本ニ於テハ生産力維持増強ニ因リ天竺
リ爾來重要ナル比島ニ置キ其ノ既得資源ノ積
極的開發ニ依リテ於テハ資源ノ確保ニホ
ルニテニ一ツ重要ナル要素トシテ之ヲ考
スルニ必要ナルモノトシテ之ニ依リテ地
産力ノ増強ニ努ムルニ依リテ地産力
ノ向上ニ寄与スルモノトシテ之ニ依リテ
天竺ニ於テハ生産力ノ確保ニ依リテ地
産力ノ増強ニ努ムルニ依リテ地産力
ノ向上ニ寄与スルモノトシテ之ニ依リテ
低品位鋼板ノ開發ニ依リテ地産力ノ
確保ニ努ムルニ依リテ地産力ノ向上
ニ寄与スルモノトシテ之ニ依リテ地
産力ノ増強ニ努ムルニ依リテ地産力
ノ向上ニ寄与スルモノトシテ之ニ依リテ

(2) 比島銅板ノ積込約四割ニ至リテ既得資源
ノ確保ニ努ムルニ依リテ地産力ノ向上
ニ寄与スルモノトシテ之ニ依リテ地
産力ノ増強ニ努ムルニ依リテ地産力
ノ向上ニ寄与スルモノトシテ之ニ依リテ

過剩又ハ不足対策

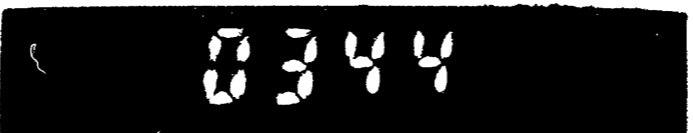
<p>(一) 大東亞區各地域、銅管製造者、基本銅管製造者、選擇的企業調査を実施し將來、實績獲得目標を樹立す</p> <p>(二) 銅管特別回収強化を図る対策</p> <p>過去ニ於ケル銅管消費量銅材、壽命見込其他を考慮し現在、銅管製造者推算し、回収目標を得ル共ニ安定調査を断行し代用品ニ取替可能トシテ、遊休未動設備ノ増加を現ニ使用中、設備ノ雖モ必要ニ応ジ之ヲ取ハツシ代用品ニ適切ナル措置を考へルコト</p> <p>(三) 代用品、確保費用を削減す</p> <p>銅管給、逼迫ニ依リ既ニ送電線及電線管ノ用スルアルル此種材料部分中、銅及銅合金使用部分、アルミ、鉄鋼、ペクテクトル共ニ依リ代替ハ現在既ニ一定程度実施セラレモ従来代用品、確保未續ル困難ナリ事情ナリ為積極的ニ之ガ代用品に見ルニ至ラザル実情ニ在リ、就テアルミニウム共、他代用品生産、拡充、銅代用品ノ價格調整表彰ノ奨励等、代用品代用品ノ奨励、代用品代用品ノ審査機関ノ設定等、適切ナル対策ヲ樹立シ代用品代用品ノ支障を減らすルコトヲ逐次実行ニ移ス様措置スルモノトス</p> <p>(四) 銅管製造者、強化を図る対策</p> <p>重要主義ニ依リ銅管供給統制ノ強化銅管使用制限ニ依リ禁止品目、秘藏等ニ依リ現在高度消費規正、実施ヲ見ツ、ルニ今後、代用品使用範囲、拡大ニ伴ヒ假令不要不急以外ノ用途ニ使用セラルル場合ニ於テモ代用品使用可能ナルモノニ就テハ、之ヲ銅管使用制限規則ノ禁止品目ニ追加シ、徹底的ニ消費規正ヲ勿行スル様考慮スルモノトス</p> <p>(五) 大東亞共栄圏以外ノ地域ヨリ輸入</p> <p>大東亞共栄圏内ニ於テハ、濠洲、印度ニモ或程度ノ産銅アルヲ以テ之ガ確保ヲ固ルコト、又將表紙、アフリカ進攻作戦ノ進展ニ依リ、南河</p>	<p>ロイデミア、白銀コング、等ノ産銅ヲ把廻制ニ於テ確保スルコトヲモナレバ南方場トノ交換ニ依リ南河産銅ノ日本向輸入ヲ順着シ得ル外、策略取引ニ依ル南米、西海、洋産銅ノ輸入を突現セシメタキモノナリ</p>
<p>過剩又ハ不足対策 (四)</p>	<p>過剩又ハ不足対策 (三)</p>



貨物	錫		日	本	滿	西	支	那	南	方	合	備	考																																	
	内地	外地																																												
錫	1	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=																																	
														2	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=																					
																										3	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=										
																																					4	=	=	=	=	=	=	=	=	=
<p>錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫</p> <p>錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫</p> <p>錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫</p> <p>錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫</p> <p>錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫</p>																																														

求五球家圖ニ於ル錫生産量ハ過去ニ於テ
 最高年産約十五万余噸ニ達シ本邦錫ニ
 依ル生産目標年間二万五千噸ヲ達ス上ニ
 居ル実情ニ於リ茲昔分ハ方ニ於テ高
 度、生産制限ヲ實施スルト共ニ通判分
 ノ貯藏保有ヲ必要トスベシ仍而錫
 ニ就テハ新用途、開拓特ニ不足資源
 ニ對スル代用化、方途ヲ考究シ且把
 錫國相互間不足物資、假此融通、具
 ニ供スルト共ニ他方運輸等、方法ニ依
 ル敵側ニ流出ヲ防止スル爲ニ適當
 ノ措置ヲ講スルモ、トス
 内地ニ於テハ錫ニ就テハ銅莫、他不足
 物ヲ産伴スルモ、ヲ除キ單純ナル錫
 物ノ生産ハ新情勢ヲ考慮シ適當ナル限
 度、之ヲ抑制スルト共ニ南方地域ニ於ケル
 錫ニ就テハ重要主義ニ依リ成ル可ク生産
 能率高キ鞍山、及旧開採ヲ實施シ其
 他ハ統制上必要ナル場合ニ限リ、或種
 度、生産ヲ復活セシムル外總テ鞍山
 封鎖、方針ヲ以テ進ムコトトシ
 通判續ニ添シテハ他日新世界錫
 資源確立ノ際其、錫供給添ハシ
 于條合的再所ニ支障ナキ措置置
 又此モ、トス

通判又ハ不足對策
 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫 錫



考 備	地方										合 計						
	北 城	日 内 地	外 地	本 邦	瀨 南 州	關 東 州	北 支	家 瀬	中 支	南 支		佛 印	英 領 印 度	東 印 東 島	表 州	印 度	針 北
	1	17	50	67													137
	2	14	55	73													156
	3	3	4	7													14
	4	3	4	7													14
	5	3	4	7													14

資料	ワグネシウム	位置	千路
----	--------	----	----

一、該計画は、後、於て生原料材計置
 二、主、英、日、清、露、米、露、地、産、主、要、生、産、品、を、主、と、し、て、開、採、水、
 三、石、炭、銅、鉄、鉛、鋅、錫、銀、金、等、を、主、と、し、て、開、採、水、
 四、主、要、生、産、品、を、主、と、し、て、開、採、水、

一、該計画は、後、於て生原料材計置
 二、主、英、日、清、露、米、露、地、産、主、要、生、産、品、を、主、と、し、て、開、採、水、
 三、石、炭、銅、鉄、鉛、鋅、錫、銀、金、等、を、主、と、し、て、開、採、水、
 四、主、要、生、産、品、を、主、と、し、て、開、採、水、

一、該計画は、後、於て生原料材計置
 二、主、英、日、清、露、米、露、地、産、主、要、生、産、品、を、主、と、し、て、開、採、水、
 三、石、炭、銅、鉄、鉛、鋅、錫、銀、金、等、を、主、と、し、て、開、採、水、
 四、主、要、生、産、品、を、主、と、し、て、開、採、水、

